

弘前大学
広報誌

ひろだい

vol.
14
2010.3

Hirosaki University Science Park



特集

環境教育・研究・地域貢献の
拠点として期待される
「弘前大学白神自然観察園」

弘前大学白神自然観察園長 佐々木 長市

創立60周年記念事業報告

教育力向上プロジェクト

北原 啓司 教育学部教授

弘前大学特別研究員制度

加藤 陽治理事

[学内トピックス] 話題の広場から

青森県産業技術センターと

連携に関する協定を締結、

「コラボ弘大」披露式、

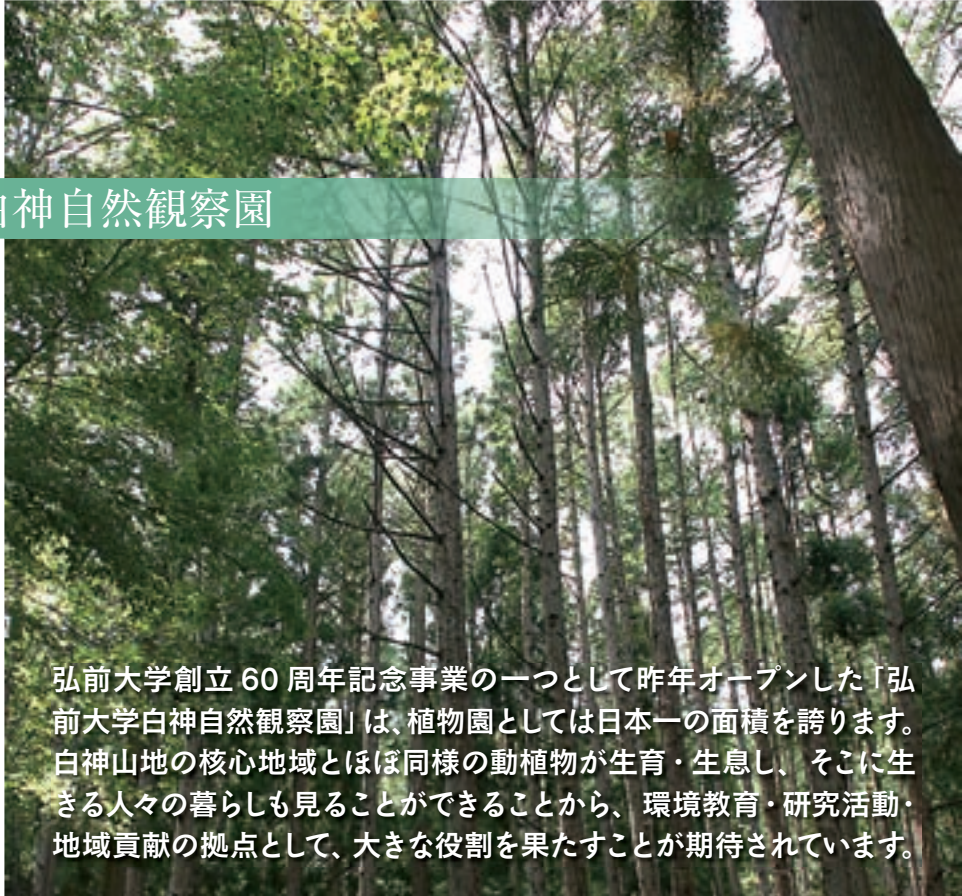
「男女共同参画推進室」看板上掲式 他

環境教育・研究・地域貢献の 拠点として期待される 「弘前大学白神自然観察園」

白神山地の自然と動植物が 観察できる国内最大の植物園

青森県南西部と秋田県北西部にまたがる白神山地。総面積約13万ヘクタールのうち、ブナ林をはじめとする広葉樹林が広がる中心部1万6971ヘクタールは、クマゲライヌワシ・ツキノワグマ・ニホンカモシカなどの動物が生息していることから、北半球湿潤冷温帯の自然生態系のすぐれた見本であるとして、1993年に世界遺産(自然遺産)に登録されました。

その白神山地に昨年4月、「弘前大学白神自然観察園」がオープンしました。17万8560平方メートルの面積を有し、植物園としては日本一の広さを誇ります。植物園は白神山地の核心地域及びその緩衝地



弘前大学創立60周年記念事業の一つとして昨年オープンした「弘前大学白神自然観察園」は、植物園としては日本一の面積を誇ります。白神山地の核心地域とほぼ同様の動植物が生育・生息し、そこに生きる人々の暮らしも見ることができることから、環境教育・研究活動・地域貢献の拠点として、大きな役割を果たすことが期待されています。

域の外に位置していますが、核心地域とほぼ同様の多様な動植物の生育、生息のほか、マタギの活動や炭焼き場の跡地など、人と自然の共生の様子を見ることができるところです。

これまでの白神研究の実績が 植物園誕生の足がかりに

白神山地は本学から車でわずか30分のところに位置するという地の利から、学内でも多くの教職員が研究対象として取り上げてきた経緯があります。白神山地が多くの研究者に注目されるのは、自然環境だけでなく、自然資源を枯渇させることなく利用してきた人々の暮らしがあるからです。ここでは古くから、人々は森林を伐採し、炭を焼き、山菜・きのこ、鳥獣類、溪流魚などを採集したり狩猟したりしながら生活してきました。世界のいたるところで自然生態系が破壊され、自然の恵みに依存し自然と共存するような文化が消え去ろうとする中、白神山地での人と自然の関わり合い方に、高い関心が寄せられているのです。

平成15年5月には、本学の牧田肇名誉教授、農学生命科学部の佐々木長市教授、檜垣大助教授が呼びかけ人となり「弘前大学白神研究会」が発足しました。白神山地に興味を持つ研究者が学部間の垣根を越えて集まり、現在では約50人が参加しています。主な活動はシンポジウム・研究発表会の開催、市民向け観察会の開催、

総合文化祭での展示、ホームページの開設などで、それらの活動報告や関連情報、それぞれの研究論文をまとめた会誌「白神研究」(弘前大学出版会発行)は、現在までに6号を数えます。

一方、平成16年4月に全国の国立大学は一斉に法人化され、競争と評価の中に置かれることとなりました。厳しい状況の中、首都圏の大規模大学と比較して本学が不足している施設や制度などを挙げてみた結果、その一つに植物園がありました。そこで文部科学省に白神山地と環境保全に関わる概算要求を提出したところ、当初は不採択でしたが、白神研究会の活動が後押しする形となり、ようやく概算要求が通るようになりました。そこで、弘前大学創立60周年記念事業の一つとして「弘前大学白神自然観察園」設置を位置づけ、開園に至ったのです。観察園の園長には、佐々木長市教授が就任しました。

白神山地をフィールドに 多彩な活動を展開したい

「弘前大学白神自然観察園」は世界的にまれな自然環境を活用し、次の3点について学習が可能となるよう、整備を進めていきます。第一が「教育推進」。自然環境学習の場として活用し、環境教育のモデル施設を目指します。第二に「研究推進」。本学の多彩な研究のフィールドとして活用します。第三が「地域貢献」。自然観察会や公開講座を開講し、白神山地と社会教育の連携の拠点と



佐々木園長ら学内の研究者で運営されている弘前大学白神研究会の会誌「白神研究」。



中村先生が所有する標本。白神山地でも新種が発見されている。

して活用します。

昨年12月24日には、「弘前大学白神自然観察園に何を望むか？ ～学校教育と環境施設のあいだ～」と題したシンポジウムを開催しました。シンポジストには現役の小中学校教諭や学校教育現場に詳しい専門家を迎え、活発な意見交換をする中で、貴重な提言を得ることができました。佐々木園長は「まず、案内板やパンフレットなどの資料づくりをしなければなりません、小学校低学年の子どもから外国人まで、それぞれの立場の人が理解できるようなものにしていかねばならないですね」と話します。

案内板や資料作成のほか、園内に赤外線カメラによる観察ができるシステムも整備、夜間の動植物観察会が実施できるような環境整備にも取りかかります。そこで捉えられた夜の動物たちの姿をCDに収め、県内の小学校に配布する計画もあります。さらに、マタギの動植物の利用法や資源管理思想の紹介、大学の教育での利用、地球温暖化対策の一環となる長期モニタリングシステムの構築、民間ガイドの質を向上させるための研修、白神きのこの会のような市民の愛好団体との連携体制の構築など、今後さまざまな取り組みが行なわれることになっています。

今年2月には2人の教員が着任し、観覧会のガイドとしての活躍も期待されています。昆虫が専門の中村剛之さんは「学生時代にも白神山地で調査した経験があります。個人的にはガガンボ類の分類学的研



クロサンショウウオ
青森県の希少野生生物に指定されている。



イワウチワ
バナの樹下に大きな群落をつくる。



シオヤトンボ
シオカラトンボの仲間。

究を進めていますが、冷温帯の極相林での調査研究は興味深く、研究対象を広げたいとも考えています」といい、植物の生態遺伝学に取り組む山岸洋貴さんは「白神山地で暮らすマタギが、植物をどのように利用してきたのか研究したいです」と話すなど、それぞれに抱負を語ります。

また、本学は中国の延辺大学と30年来的交流があり、姉妹校の協定を結んでいます。延辺大学の近くにも世界遺産長白山があり、研究活動がなされていることから、両校で研究者を派遣し合い、白神山地と長白山についての共同研究を展開することになっています。

佐々木園長は今後の施設整備について「環境教育のモデルとなるような施設を目指し、実際に教育に携わっている方など、関係する多くの皆さんの意見をうかがっていきたい」と、考えを語ります。

弘前大学白神自然観察園

青森県中津軽郡西目屋村川原平大川添101-1、99-2
お問い合わせ／弘前大学白神自然観察園担当
TEL 0172-39-3915

※入園無料



弘前大学白神自然観察園長
佐々木 長市 (ささき ちょういち)
農学生命科学部地域環境工学科教授

専門分野は農地工学。昭和56年岩手大学農学部農業土木科卒業、昭和58年同大大学院農学研究科農業土木学専攻修了、同年宮城県農業短期大学助手、平成7年弘前大学農学部助教授、平成9年アジア工科大学(タイ王国)留学、平成12年農学生命科学部教授。



中村剛之 (なかむら たけゆき)
弘前大学白神自然観察園准教授

修士課程では九州大学農学研究科で「日本産メカクシクブトゾウムシ族の分類学的研究」をテーマに昆虫分類学の基礎を学び、博士後期課程では九州大学比較社会文化研究科で「東アジア産ガガンボダマシ科昆虫の系統分類学的研究」をテーマにする。その後、栃木県立博物館の昆虫担当学芸員となり、平成18年には文部科学省の学芸員等在外派遣研修に参加、4ヵ月にわたりオランダのアムステルダム動物学博物館において昆虫標本の管理と活用の手法を学ぶ。



山岸洋貴 (やまぎし ひろき)
弘前大学白神自然観察園助教

帯広畜産大学畜産学部畜産環境学科卒業後、同大大学院畜産学研究科を経て、北海道大学大学院地球環境科学研究科へ進む。修了後も北海道十勝平野を舞台に森林分断化が植物に及ぼす影響について生態遺伝学的視点から研究。平成21年4月、新潟県の十日町市立里山科学館にて農業用水水源地域保全対策事業の専門員として採用。棚田を中心とした里山文化とその自然の利用法について研究する。地球環境科学博士。

創立60周年記念事業報告

第9回弘前大学総合文化祭を開催 今年のテーマは『PARADISE』

創立60周年記念 第9回弘前大学総合文化祭が昨年10月23日から25日の3日間にわたり、本学文京町キャンパスで開催されました。

今年度のテーマ『PARADISE』には“楽園”という意味があり、来場された方々に学祭ならではの楽しさを感じてもらえる、楽園のような弘大祭を作りたいという想いから掲げられました。

オープニングフェスティバルでは、集まった大勢の観客を前に総合文化祭推進委員会委員長の遠藤学長が声高らかに開祭宣言し華々しくスタートしました。

期間中は、学生主体の模擬店でキャンパスは賑わい、学生の日頃の研究成果をもとにした実習や実験を直接体験できる「サイエンスの招待」をはじめとし、様々な研究発表がありました。また、教職員の芸術作品を展示した「職員芸術・造形作品展」や県内各地から計8チームが集合し、華麗な演舞を披露した「よさこい弘大」、文京町キャンパスを舞台に熱戦が繰り広げられた「駅伝大会」といったイベントの他に、一般来場者が参加できる「ビンゴ」や「アームレスリング大会」、「スタンプラリー」など多彩な催しも行われました。

前回同様、包括協定を締結している弘前市により行われた「地元産農産物販売、りんごジュース無料試飲会」や、青森で採れた海と山の幸の紹介及び販売を行った「鱈ヶ沢物産展フェア」にも多くの来場者が訪れていました。

弘前大学後援会からの助成によるキャンパス内外を彩る幟、提灯も掲げられ、お祭りムードを盛り上げていました。

学生、教職員、地域住民が一体となり本学の更なる飛躍が感じられる3日間となりました。



遠藤学長の開祭宣言



駅伝大会



弘大YOSAKOIサークル



イベントの様子



来場客で賑わうキャンパス



ソフトボール大会



アームレスリング大会

60周年記念演奏会

本学の創立60周年を記念して、弘前大学フィルハーモニー管弦楽団による記念演奏会を開催しました。

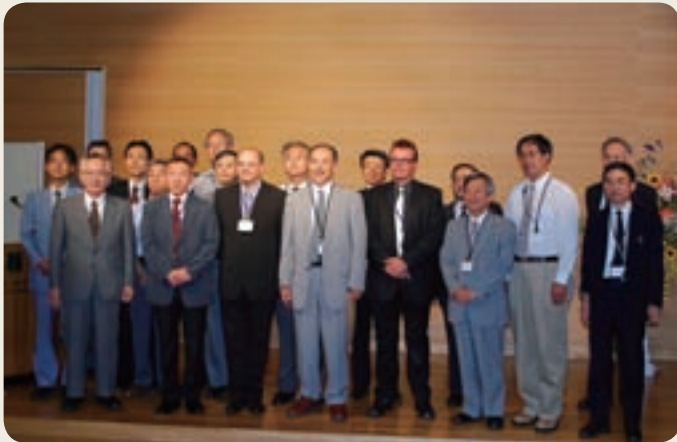


演奏する弘前大学フィルハーモニー管弦楽団

演奏：弘前大学フィルハーモニー管弦楽団
指揮：安達弘潮 名誉教授
【弘前会場】日時：平成21年11月22日18:00～20:00
場所：弘前市民会館
【八戸会場】日時：平成21年12月6日13:30～15:30
場所：八戸市公会堂

緊急被ばく医療国際シンポジウム

創立60周年記念事業の一環として「放射線基礎研究から緊急被ばく医療まで」をテーマに「第1回緊急被ばく医療国際シンポジウム」を昨年8月1日、弘前大学医学部コミュニケーションセンターで開催しました。



シンポジストとの記念撮影

シンポジウム「縄文遺跡群の世界遺産登録に向けて」

北海道、青森県、岩手県及び秋田県には、15の縄文遺跡が分布しており、現在、世界文化遺産の国内候補遺産リストに登録されています。

15の縄文遺跡のうち、青森県は8遺跡を有し、それらの調査には弘前大学も深く関わってきたことから、昨年10月24日、創立50周年記念会館において、世界文化遺産登録の意義や登録実現への道を探るシンポジウムを開催しました。



シンポジウムの様子

弘大シンポジウム テーマは「私が学長だったら、〇〇〇します!!」

本学では、創立60周年記念学生参加事業として「弘大シンポジウム」を昨年11月13日、創立50周年記念会館で開催しました。

主催の学生中央委員会は、「私が学長だったら、〇〇〇します!!」のテーマで学生に募集を行い、約100件の意見が寄せられ、その中から「学祭に力を入れます!」、「喫煙室を設置します!」「コラボ弘大を活気ある施設にします!」「履修する授業数の応じて授業料を徴収します!」の四つが、事前にシンポジウムのテーマに選ばれました。

当日は、選出された発表者が中心となり、参加学生が各テーマに分かれて討論し、提案を全体発表する形で進められました。参加者の投票により「履修する授業数に応じて授業料を徴収します!」を発表した人文学部3年の福井 奨士さんが最優秀を受賞しました。

最後に議論の様子を見学していた遠藤学長が、各テーマ毎にコメントし、「学生が大学のことについてディスカッションすることはありがたい。日本一の地方大学を目指して行きたい。」と講評を述べました。

学生参加事業

創立60周年記念事業は、大きな柱の一つとして「学生参加」を謳い、昨年6月6日に開催された創立60周年記念式典の運営にも、教職員と共に学生ボランティアとして参画し、来賓案内や場内整理等を行いました。

また、記念式典の他にも、様々な学生参加事業を行いました。(右表のとおり)



記念式典学生ボランティア



北八甲田登山



遠藤学長と学生中央委員及び発表者

創立60周年記念学生参加事業一覧

①式典	6/6	記念式典	
	6/6	学生記念植樹	
②総合文化祭	10/23・24	総合文化祭	
	10/25	総合文化祭 後夜祭	
③芸術祭	6/21	弘前大学フィルハーモニー管弦楽団 創立40周年記念演奏会	
	6/27・28	劇研マップレス新人公演	
	7/11	七タココンサート	
	11/20~22	大学書道展	
	11/30	スライド・ミュージック・コンサート「トロンボーン アンサンブルの響き」	
	11/11~13	弘前大学美術部 関根展	
	12/10~12	Winter Concert	
	12/12	第36回定期演奏会	
	12/19	クリスマスコンサート	
	12/25	第16回定期演奏会	
④言語力大賞	1/16	第47回定期演奏会	
	1/16・17	劇団ブランクスター冬公演	
	2/5~8	平成21年度弘前大学教育学部美術教育講座卒業研究・制作展	
	2/20・21	平成21年度弘前大学教育学部美術教育講座卒業研究・制作展	
	2/17~23	藤井花恵個展	
	2/20	5周年記念コンサート	
	3/20	自主上映会	
	⑤言語力大賞		弘前大学学生「言語力」大賞コンテスト
	⑤スポーツ大会	5/24	弘前大学におけるボールゲームの開催
		10/4	第34回北海道・東北学生競技ダンス対抗戦&弘前大学創立60周年記念大会
⑥レクリエーション	7/4・5	北八甲田登山	
	10/10	記念登山 岩木山 日帰り山行	
⑦シンポジウム	11/13	弘大シンポジウム:「私が学長だったら、〇〇〇します!!」	

2009.5.21~2010.3.20



機動力抜群のラボ・バスと 県内全域を結ぶLANを駆使し 新しい教育手法を提案する 「教育力向上プロジェクト」

青森県内を西へ東へ駆け回るラボ・バス。外装デザインも教育学部の美術教員が担当



北原啓司 (きたはら けいし)

教育学部教授・教育学部副学部長

1956年生まれ。三重県出身。79年、東北大学工学部建築学科卒。85年、同大学大学院工学博士課程修了後、同大建築学科助手。94年、弘前大学教育学部助教授、03年、同教授。04年から副学部長。専門は都市計画、コミュニティデザイン。工学博士、一級建築士。著書に「まち育てのススメ」(弘前大学出版会)などがある。



子どもたちには学びの楽しさを伝え、教員には教育力を身につけさせ、教員を目指す本学学生には多様な教育実践の場を経験させることを目的に、平成20年度から始まった教育学部の『教育力向上プロジェクト』。移動教室用実験バス(ラボ・バス)を活用して授業や研修を行なうとともに、インターネット接続により、移動先と県内各地を結びます。最新の機械や、大学の人材・ノウハウを生かした新しい教育の手法を提案し、青森県全体の教育力向上を図ります。

大学が教育現場へ出向き その成果を県内全域に発信

教育学部では平成20年度から、青森県の小・中・高等学校を対象とした『教育力向上プロジェクト』を実施しています。この事業は弘前大学と青森県との包括協定の下、青森県教育委員会等と連携し、最新設備を積んだ移動教室用実験バス(ラボ・バス)を活用しながら、教育力向上を目指すというものです。学部独自にこうしたバスを所有するのは、全国に先駆けた事例。北原啓司教授は「教育学部の学生は、2週間の教育実習だけでなく、もっと教育の現場に出て学ぶことが大切です。地域と協働しながら学生を教育したい、地域で学生を育ててほしいという思いは以前からあり、その発想が今回のプロジェクトにつな

がりました」と語ります。

取り組みの柱の一つに挙げられるのは、先進的な授業の実践です。学校にはない高価な機材や最新の機材などをラボ・バスに積み込んで、下北・三八地域等の遠隔地も含めた県内全域に教育学部教員が出向き、児童・生徒に学びの楽しさを伝えるとともに、教職員を対象とした研修の場を提供します。地理的な問題などで機材が揃わず、授業展開が限られてしまう学校もある中、ラボ・バスを活用することにより、こうした教育の格差を緩和することができます。

けれども、バス1台では各施設を訪問できる回数に限界があり、大きな成果を見込めません。そこで効力を発揮するのが、インターネットです。遠隔地での授業や研修は、LANによって結ばれた他地域の教育委員会研修施設や



グラスハーブを用いた「演奏と音に関する実験学習」



スポーツ科学を専攻する高校生を対象にした「体を探る、測る」の実施風景



下北のむつ養護学校と弘前大学をインターネットで接続し、双方向のやりとりを実現

教育学部附属学校で視聴でき、双方向での議論も可能になります。北原教授は「本プロジェクトは単なる出前授業ではありません。たとえば、バスに積み込めないような大がかりな機械を使うような授業は附属学校で行ない、それをインターネットで県内全域の学校に配信するという利用法も考えられます」と、取り組みの広がりについて期待を込めて語ります。

豊かな発想と工夫次第で 多岐にわたる事業が可能に

本プロジェクトは5ヵ年計画で進められます。プロジェクトが始動した20年度はラボ・バスの整備を行ない、大鰐町、五所川原市、むつ市などの小中学校で美術、技術、保健体育の13講座を試験的に実施。本格的な実施となった21年度は、21の事業を行ないました。一般の小・中・高等学校にはない測定装置や合成装置、走査型電子顕微鏡（SEM）を使った実験や観察、身体機能の測定ができる最新鋭機器を用いたスポーツ科学の基礎講座など、通常の授業では用意できない機械を持ち込んだり、『グラスハーブの演奏と音に関する実験学習』や『模擬裁判員裁判体験に

よる法教育入門』など、担当教員の専門性を生かした特色ある体験学習を展開したりと、ラボ・バスの機動力を十分に発揮することができました。

さらに、本プロジェクトは学校教育の分野にとどまらず、一般市民を対象とした社会教育の場でも活用できます。昨年8月に実施された北原教授の『まちづくりシャレットワークショップ』は、黒石市のごみせんホールを会場に、地域住民や全国公募の学生を集めて開催されました。「模型の材料や、コンピュータ、高性能のプリンターなどいっぱい運びました。翌日はそこから仙台へ向かい、日本建築学会で模型を使ったワークショップを行いました」と話す北原教授。こうした活動が実現できるのも、ラボ・バスの機動性があるからこそです。

1月には下北地域とのインターネット接続を試み、映像や音声のやりとりに全く支障がないことが確認されました。

「下北のむつ養護学校と、弘前大学の学部長室、附属特別支援学校をLANで結んだのですが、映像のレベルが高いことが分かりました」

こうした機能を生かすことにより、来年度の取り組みはさらに広がりを見せそうです。

活用度がより高まるよう さらなる開発を進めたい

2年間の取り組みにより、ラボ・バスを軸としたプロジェクトの内容は、県内の教育関係者に徐々に認知されてきています。「現場の先生から問い合わせをいただくこともあります」と話す北原教授は、何よりもまず実際に教壇に立つ教員に関心を持ってもらうことが大切で、そうでなければ教育力の向上につながらないと言い切ります。

「そのためにも、大学は機材とノウハウ、人材を駆使し、さまざまな取り組みのアイデアを練らなければなりません。おもしろい授業もするし、先生方の研修もするし、現場の先生と一緒に新しい機械や器具を使った授業方法の開発もするというように、多面的に広げていきたいですね。それを県内の先生に知ってもらい、学んでもらうのです。すべての教科で活用できるはずですよ」

また、教員を目指す本学の学生にとっても、実践の場に関わる機会が多くなるという点で、得るものは大きいといいます。

「こうした経験を経た本学の学生が青森県の教員となり現場に出ることによって、さらなる連携が生まれます。これは大学院教育、学部教育にとって、そして教育現場にとっても重要なことだと思います」

プロジェクトの可能性を探り、ここ1～2年のうちにさまざまな方法を開発し、提案していきたいと語る北原教授。「このラボ・バスは単に機械を運んでくるだけでなく、新しい教育の方法も持って来てくれるバスなのだ」と認識してもらえるように、いろいろな展開を考えたいと思います。見た目は小さくてかわいいバスですが、中味はすごく充実していますから」と、意欲と自信をのぞかせます。



小学生を対象に、古・現代の楽器の比較演奏などを行なう「楽器今昔物語」

地方独立行政法人青森県産業技術センターと連携に関する協定を締結

本学は、昨年4月に工業や農業など青森県の4試験研究機関が統合し、地方独立行政法人として発足した青森県産業技術センターと相互の密接な連携と協力により、地域における教育、研究及び技術の発展並びに産業振興及び経済発展に資することを目的として、昨年9月28日に連携に関する協定を締結しました。

協定書調印式は、弘前大学創立60周年記念会館「コラボ弘大」で青森県産業技術センターから唐澤理事長、佐藤理事兼事務局長、鳴海企画経営室長、木野田総括企画経営監が、本学から遠藤学長、加藤研究・産学連携担当理事、南條学長特別補佐、檜楨地域共同研究センター長が出席して行われ、唐澤理事長と遠藤学長が協定書を取り交わしました。

唐澤理事長は、「弘前大学にコスト評価や市場調査を行ってもらうことで商品化という出口を見据えた研究が可能になる。」と述べ、遠藤学長は、「これまで同センターとは連携してきたが、協定締結により研究成果発信の環境が一層整う。」と期待を込めました。

当面の取り組みとしては、同センターが採択された経済産業省の補助事業である「植物工場」でエネルギーの低コスト化を目指して弘前大学の北日本新エネルギー研究センターと連携して研究を進めることとしています。



協定書を取り交わす遠藤学長(左)と唐澤理事長(右)

「コラボ弘大」の披露式を挙行

本学では、創立60周年を記念して、産学官連携・社会貢献の機能を一元的に集約した複合ビル「コラボ弘大」が建設されたことを受け、披露式を昨年9月15日に挙行し、大学関係者のほか産学官関係の来賓など約90名とともに祝いました。

「コラボ弘大」は、地上8階建てで大学院地域社会研究科、生涯学習教育研究センター、機器分析センターの教育研究部門と関連管理部門が入居し、既設の地域共同研究センターと合わせて本学の産学官連携・社会貢献の拠点機能を担います。

また、5階と6階には研究開発型の企業、インキュベーション企業、公設の研究機関、大学の教員・学生の研究を支援するためのレンタル・ラボ、最上階の8階には八甲田連邦が一望できるイベントホール「八甲田ホール」が設置されており、セミナー、シンポジウムが開催できるようになっています。



挨拶する遠藤学長

「男女共同参画推進室」看板を設置

本学は男女共同参画社会基本法による、男女共同参画社会の実現に向け、本学における施策などの推進を図るため、昨年10月1日に「男女共同参画推進室」を設置しました。

設置当日は、看板上掲式が執り行われ、多数の関係者が出席する中、遠藤学長と杉山室長が総合教育棟玄関に「男女共同参画推進室」の看板を掲げました。

今後は、基本計画を基に広報、学内の現状把握など、具体的活動に取り組み、働きやすく、学びやすい環境を整え本学における男女共同参画の実現へ大きく貢献できるものと期待されています。



看板を掲げる遠藤学長(左)と杉山室長(右)

白神自然観察園の開園式を挙行

本学では、創立60周年記念事業として新たに設置した白神自然観察園の開園式をこのほど挙行、大学関係者と来賓ら約100名が開園を祝いました。

同園は、世界自然遺産白神山地に隣接する場所に約18haの民有地を借り受け、環境教育に資する施設や観察道を整備したものです。教育・研究をはじめ、白神のガイド等の社会人教育など地域貢献で、子供から大人までの白神山地に関するあるいは環境教育に関する学びの一助を目指します。また、地球温暖化に対応する気候変動の長期モニタリング基地を設置し、研究に資することや適宜に情報を広く発信していく役割も担います。

開園式では、遠藤学長が「観察園は、世界自然遺産白神に関しての教育・研究の拠点とし、今日の重要課題である地域温暖化、環境保全、CO₂削減の諸問題に立ち向かうための研究ならびに森林浴及び地域の文化の教育研究に邁進し、更に、国際交流協定締結校である中華人民共和国の延辺大学との間で世界自然遺産である白神山地と長白山との学術共同研究の展開が期待される」と式辞を述べました。来賓の三村青森県知事、関西目屋村長、盖同祥延辺大学副校長の祝辞に続き、土地提供者に対する感謝状の贈呈、

佐々木園長から同園の概要説明と今後の活動への抱負が述べられました。

式典終了後、白神自然観察園において、関係者によるテープカットが執り行われました。



関係者によるテープカット

平成21年度合同企業説明会を開催

今年2月9日から10日の2日間にわたり、ベストウェスタンホテルニューシティ弘前に於いて、「平成21年度弘前大学合同企業説明会」を開催しました。

当日は、全国各地から本学学生の採用に積極的な198社の企業と、就職活動本番の時期を迎えた3年生及び修士1年生、延べ942名が参加しました。

県内外の人事担当者が一堂に会し、これだけ近い場所で本学学生に向けた話が聞けるということは、遠方での活動に交通費等が重い負担となる学生にとって、大きな支援となっています。そして企業説明に加え、採用選考に進んでいく機会ともなるため、各ブースでは学生が熱心に説明に聞き入り、中には積極的に質問をする者も見られました。

また当日は、4年生が学生受付等の業務にアルバイトとして参加しており、後輩に自らの体験談を伝えたり、アドバイスをする姿なども見られました。



会場の様子

教育学部附属小学校で知的財産授業を実施

～将来の青森を支える子供たちに知的財産に関する知識の普及を～

今年2月18日、本学教育学部附属小学校において、知的財産授業が実施されました。

「知的財産立国」の実現のために、その基盤となる知的財産を生み出す人材の育成は重要課題のひとつとされており、小・中学校の早い段階から自由な発想、創意工夫の大切さを認識させ、また、発明への関心を高めることは非常に重要と考えられます。

この日の授業は、弁理士2人が講師となり、弁理士会の教材「今日から君もエジソン」に基づいて行われ、パソコン映像等を使用して、自らのアイデアが自分たちの生活を向上させていくことにつながるという「発明の楽しさ」を実感してもらうことを目的とした内容でした。授業を受けた児童は、会話のキャッチボールを通じて、1つの発明にたどり着く過程を学びました。また、授業終了後には大勢の児童が教材の回りに集まり、興味深そうに手に取り、質問をしていました。



授業の様子

平成21年度「弘前大学ドリーム講座」を実施

本学は、高校生に「学ぶこと」の魅力、学ぶことを通じて将来の夢について考えを深める機会を提供する事を目的として、青森県内の高等学校を対象に「弘前大学ドリーム講座」を実施しました。

この講座は、各高校毎におよそ8名程度の研究分野の異なる教員が赴き、生徒たちがその中から自ら希望する分野の講義を選択して受講するというもので、平成21年度は昨年7月から11月までの間に、9校の高校で実施しました。受講した生徒たちは、日頃の授業とは違う大学の講義の雰囲気に興味津々の様子で耳を傾けていました。

■7月15日(水) 田名部高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
石堂 哲也	人文学部	学部長教授	考える楽しさ・知る喜び	25
木村 宣美	人文学部	教授	英語学とは何か	14
四宮 俊之	人文学部	教授	お金を儲けるって、どのようなこと	54
和久 秀樹	教育学部	准教授	めざせ!教育プロフェッショナル	31
鈴木 光子	保健学研究科	講師	看護ってな〜に子どもとのかかわりから	40
石川 玲	保健学研究科	教授	理学療法概論と教育	24
深瀬 政秋	理工学研究科	教授	IT技術の基礎から最新線まで	16
佐川 貢一	理工学研究科	准教授	理工系学部で何をやっているのか(3次元動作解析他)	18
菊池 英明	農学生命科学部	教授	遺伝子情報の発現と制御	13

■7月28日(火) 黒石高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
木村 宣美	人文学部	教授	英語学とは何か	33
清水 紀人	教育学部	教授	スポーツコーチ学入門	23
中野 京子	保健学研究科	准教授	尿は情報の宝庫	38
力石 國男	理工学研究科	教授	地球温暖化と雪氷圏の衰退	44
福澤 雅志	農学生命科学部	准教授	モデル生物「細胞性粘菌」の生物学	30

■8月18日(火) 弘前中央高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
福田 健太郎	人文学部	准教授	親子と法	24
鈴木 和雄	人文学部	教授	経済を考える、経済学を学ぶ	26
村山 正明	教育学部	教授	「よい子」教育の問題	53
西澤 一治	保健学研究科	教授	病気と闘うsuper weapon、放射線	61
宮永 崇史	理工学研究科	教授	光と電子の不思議な話	33
斉藤 稔	理工学研究科	教授	並列コンピュータとシミュレーション	17
本多 和茂	農学生命科学部	准教授	弘前公園のサクラの花芽分化〜休眠そして開花	5
橋本 勝	農学生命科学部	教授	天然物化学のおもしろさ	20

■9月19日(水) 八戸東高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
植木 久行	人文学部	教授	李白と杜甫	12
ジャンソン、ミッシェル	人文学部	講師	大学で学ぶフランス語	23
石黒 格	人文学部	准教授	ヒトの「世界」認識	34
岩田 一哲	人文学部	准教授	企業経営のしくみ〜コンビニエンスストアの経営手法を中心に〜	21
大坪 正一	教育学部	教授	現代教師論	17
富澤 登志子	保健学研究科	講師	生活習慣病をとりまく看護	26
吉田 英樹	保健学研究科	講師	生活習慣病と理学療法	30
川上 淳	理工学研究科	准教授	物質創成の面白さ〜蛍光性化学センサーの合成〜	7
小野口 一則	理工学研究科	教授	コンピュータビジョンと画像処理	9
齊藤 玄敏	理工学研究科	准教授	宇宙からの地球観測〜宇宙利用工学への誘い〜	7

■9月10日(木) 三沢高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
小野寺 進	人文学部	准教授	『ガリバー旅行記』を読む	23
フルート、フォルカーミハエル	人文学部	准教授	平和学とは何か	50
黄 孝春	人文学部	教授	中国経済と私たちの生活	16

松本 敏治	教育学部	教授	あなたのまわりの少し不思議な人たち	64
五十嵐 世津子	保健学研究科	講師	看護と母性	46
野田 美保子	保健学研究科	教授	作業療法って何するの?	15
鳥飼 宏之	理工学研究科	准教授	火と戦う(消火の科学・技術)	16
佐川 貢一	理工学研究科	准教授	理工系学部で何をやっているのか(3次元動作解析他)	32
高田 晃	農学生命科学部	准教授	天然物化学への招待〜化学を使って生物学を理解しよう〜	23

■9月18日(金) 五所川原高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
石堂 哲也	人文学部	学部長教授	考える楽しさ・知る喜び	33
長谷河 亜希子	人文学部	准教授	会社法入門・株式会社とは?株をかうってどういこと?	14
細矢 浩志	人文学部	准教授	「日本経済の構造改革」とは何か?	15
和久 秀樹	教育学部	准教授	めざせ!教育プロフェッショナル	34
則包 和也	保健学研究科	講師	こころを看護する精神看護	37
浅田 秀樹	理工学研究科	准教授	アインシュタインと宇宙物理のはなし	63
鳥飼 宏之	理工学研究科	准教授	火と戦う(消火の科学・技術)	17
佐野 輝男	農学生命科学部	教授	遺伝子からバイオまで	15

■10月9日(金) 青森東高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
カーベーター、ビクター・リー	人文学部	教授	えっ!?マクロが食べられなくなるの?〜食料と政治問題〜	37
平田 淳	教育学部	准教授	「開かれた学校づくり」と高校生の学校運営参加	79
岩田 学	保健学研究科	教授	理学療法士と作業療法士の仕事と学校教育	41
檜垣 大介	農学生命科学部	教授	森と土地が作り出す豊かな自然〜世界遺産白神山地	18

■10月21日(水) 八戸西高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
山本 秀樹	人文学部	教授	世界の言葉から欧米の言葉を考える	40
齋藤 義彦	人文学部	教授	グローバル化の中のドイツ	23
児山 正史	人文学部	准教授	国家公務員の人事制度〜天下り問題を中心に	29
清水 紀人	教育学部	教授	スポーツコーチ学入門	73
小倉 能理子	保健学研究科	講師	看護は観察から始まる	50
吉田 英樹	保健学研究科	講師	理学療法と作業療法	39
澤田 英夫	理工学研究科	教授	我々の生活の中でのフッ素の化合物	40
榊 真	理工学研究科	教授	多変数関数と形の数学	32
橋本 勝	農学生命科学部	教授	天然物化学のおもしろさ	30

■11月26日(木) 青森南高等学校

講師名	所属学部名	職名	講義タイトル	受講者数
田中 岩男	人文学部	教授	ファウストと近代	36
柑本 英雄	人文学部	准教授	世界の現実を知る: 国際協力論への誘い	28
福田 進治	人文学部	准教授	経済思想と現代	17
福島 裕敏	教育学部	准教授	「めざせ教育プロフェッショナル〜「教育」の語源とメタファーから考える先生の仕事」	29
川崎 くに子	保健学研究科	講師	ケアとは	17
對馬 栄輝	保健学研究科	准教授	障害と理学療法	34
宮永 崇史	理工学研究科	教授	光と電子の不思議な話	36
中澤 日出樹	理工学研究科	助教	エレクトロニクス薄膜技術	17
佐々木 実	理工学研究科	講師	青森県をつつた火山の話	13
牛田 千里	農学生命科学部	准教授	遺伝のしくみ	11

講座数/72講座 講師数/72人 受講者数/2110名



「教育に関して優れた業績を上げた教員」及び「成績優秀学生」の表彰式を実施

本学では、平成21年度から、前年度において「教育に関して優れた業績を上げた教員」及び「成績優秀学生」を対象として表彰制度を導入し、今年1月15日に事務局大会議室で表彰式を実施しました。

今回の受賞者は、教員7名、学生25名で、表彰式には、各学部長・研究科長も出席し、遠藤学長から一人ひとりに表彰状と、学生には副賞も贈呈されました。

これを受けて、教員を代表して保健学研究科の西澤教授から、「後世の評価に耐えうる教育をなせ、という叱咤激励の意味と受け取り、更なる研鑽と教育内容の充実に取り組みたい」、学生を代表して人文学部2年の三上 萩乃さんから、「このような賞をいただいたので、今後いっそう勉学に励み、努力していきたい」と謝辞が述べられました。

【学部学生】

所属学部・学科等	学年	氏名
人文学部 人間文化課程	2年	三上 萩乃
人文学部 経済経営課程	3年	大久保 香織
人文学部 経済経営課程	4年	黒田 麻美
教育学部 学校教育教員養成課程	2年	工藤 有恵
教育学部 学校教育教員養成課程	3年	濱邊 光
教育学部 養護教諭養成課程	4年	笠井 麻由美
医学部 医学科	2年	是川 海
医学部 医学科	3年	奥瀬 由唯
医学部 医学科	4年	大高 由美
医学部 医学科	5年	本郷 恭子
医学部 医学科	6年	秋山 慎太郎
医学部 保健学科 看護学専攻	2年	工藤 聡子
医学部 保健学科 放射線技術科学専攻	3年	三浦 喬弘
医学部 保健学科 検査技術科学専攻	4年	馬場 萌
理工学部 電子情報工学科	2年	鎌田 洋輔
理工学部 物質創成化学科	3年	相馬 有沙
理工学部 地球環境学科	4年	遠藤 由加里
農学生命科学部 分子生命科学科	2年	伊藤 祥子
農学生命科学部 応用生命工学科	3年	小林 葵
農学生命科学部 地域環境科学科	4年	千葉 文絵

◎人文3名、教育3名、医学科5名、保健学科3名、理工3名、農生3名、計20名

【大学院学生】

所属研究科・専攻等	学年	氏名
教育学研究科 養護教育専攻	2年	濱端 美奈子
医学研究科 医科学専攻	2年	西澤 尚徳
保健学研究科 保健学専攻	2年	渡邊 繭子
理工学研究科 物質理工学専攻	2年	後藤 勇貴
農学生命科学研究科 応用生命工学専攻	2年	陳 星

◎教育1名、医学1名、保健1名、理工1名、農生1名、計5名

【学部・研究科長推薦】

所属学部・研究科等	職名	氏名
人文学部 国際社会講座	准教授	柑本 英雄
教育学部 教育保健講座	教授	太田 誠耕
医学研究科 病理生命科学講座	教授	鬼島 宏
保健学研究科 医療生命科学領域	教授	西澤 一治
理工学研究科	教授	澤田 英夫
農学生命科学部 地域環境工学科	助教	加藤 幸

【学内共同教育研究施設長・医学部附属病院院長等推薦】

所属研究科・研究科等	職名	氏名
総合情報処理センター	准教授	佐藤 友暁



遠藤学長と受賞者

第5回 弘前大学学生「言語力」大賞コンテスト受賞者一覧

弘前大学附属図書館では10月27日が「文字・活字文化の日」として制定されたことに因み、知の継承と創造において最も重要な能力である、読む力・書く力・調べる力・伝える力を含む『言語力』を高めるため、学生を対象に『言語力』大賞を実施しており、今回が5回目となります。

審査の結果、大賞の人文学部2年の三浦 元義さんをはじめ、下記の学生の作品が選ばれました。

■大賞

教育学部4年 三浦 元義 幻灯夢

■優秀賞

教育学部4年 民部田 真由子 四季
人文学部2年 柳谷 智美 もしも、ホテルみたいなら
理工学部4年 水口 元 写真

■佳作

人文学部4年 山本 浩輔 落書き

平成21年度 弘前大学学生表彰一覧

【団体】

課外活動で特に顕著な功績があった学生等

■体育系課外活動

柔道部	・平成21年度東北学生柔道優勝大会 女子3人制の部 優勝
軟式野球部	・第32回全日本軟式野球選手権大会 奥羽地区予選 優勝 ・また、この成績により同全国大会ならびに第30回東日本軟式野球選手権大会への出場
競技ダンス部	・第77回全東北学生競技ダンス選手権 総合の部 第1位獲得
空手道部	・第31回全国国公立大学空手道選手権大会 組手試合男子団体戦 第3位
医学部空手道部	・第52回東日本医科学生総合体育大会 空手道競技男子総合・男子団体組手・男子団体形 それぞれ優勝
医学部 バドミントン部	・第39回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子団体 準優勝 ・第52回東日本医科学生総合体育大会 バドミントン競技女子団体 3位
医学部空手道部 【昨年度】	・第51回東日本医科学生総合体育大会 空手道競技男子総合・男子団体組手・男子団体形 それぞれ優勝

■文化系課外活動

弘大ラジオサークル	・第26回NHK全国大学放送コンテスト ラジオドラマ部門 第3位
-----------	----------------------------------

社会活動で特に顕著な功績があった学生等及び課外活動で特に顕著な功績があった学生等

弘前大学 吹奏楽団	・毎年の定期演奏会をはじめ様々な活動を積極的に行い、弘前大学の知名度向上に極めて強く貢献している。毎年のコンクールに於いては、常に弘前地区大会、青森県大会で1位を維持し、東北大会では5年連続銀賞を得た。
弘前大学 スティールパン部	・全国初の大学スティールパン団体として結成以後、種々のイベントに参加するなど活動の場を広げている。また、陸奥新報、東奥日報、NHK、RAB等の新聞・ラジオ・テレビなどで数多く取り上げられた。
弘前大学津軽 三味線サークル	・津軽地方の伝統楽器を演奏する団体として設立され以後、活動の幅を広げている。津軽三味線の大学団体は全国でも珍しく、本サークルが最大規模のものとなっている。
弘前大学生生活協同 組合学生委員会	・弘前大学オープンキャンパスにおいて、来場した高校生等に弘前大学の魅力を伝えるために、弘前大学に協力しながら様々な催しを企画し、活動を行った。また、キャンパス内を綺麗にするために、花壇に花を植え込み、その管理も行ってきた。
人文学部森ゼミナール・高島ゼミナール	・弘前市内の企業や自治体にヒアリングを実施し、それら組織が抱える課題を明らかにし、その解決策について提言をまとめた。 ・なお、彼らの取組は東奥日報などでも大きく取り上げられ、記事の中でも高く評価された。
学生中央委員会	・平成21年に創立60周年を迎えるに当たり、学生参加事業として、弘大シンポジウムが企画された。学長懇話会のメンバーが中心となり学生中央委員会を結成し、実施に向けて準備、実施し、新聞に掲載され高く評価された。

【個人】

研究活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

澤田 恵理 教育学研究科2年	<ul style="list-style-type: none"> ・含フッ素高分子 / 酸化チタンナノコンポジットの調製と応用に関する研究を積極的に、かつ自主的に展開。 ・「含フッ素高分子/酸化チタンコンポジットの調製とその応用」に関するポスター発表に対して、2009年度色材協会研究発表会優秀ポスター賞を受賞。 ・第17回コンポジット、ナノ工学国際会議に出席し、自ら行った研究成果を英語により口頭発表。
羽賀 敏博 医学部医学科6年	<ul style="list-style-type: none"> ・稀な代謝性疾患である「成人発症Ⅱ型シトルリン血症」の病態を解析し、日本病理学会学術集會にて学会報告した。加えて、その論文を作成し、学会専門誌「診断病理」に受理された。
中野 雅之 医学部医学科6年	<ul style="list-style-type: none"> ・第98回日本病理学会総会において、「関節および腱鞘の抗酸菌感染症の3例:病理標本を用いた16S rDNAのPCRによる診断と菌種同定の試み」を発表し、学部学生示説最優秀賞を受賞した。
三木 康生 医学研究科3年	<ul style="list-style-type: none"> ・筆頭著者として、2009年に5編の英文原著論文を査読性のある国際学会誌に投稿した。認知症(論文1)、レビー小体病(論文2)、運動ニューロン病(論文3)、舞蹈病(論文4)における新たな病型を提唱し、さらに代表的な神経難病であるパーキンソン病で皮膚にも病変が及んでいることを生検を用いて初めて明らかにした。
前川 慎吾 理工学部4年	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度化学系学協会東北大会で有機化学分野の最優秀ポスター賞を受賞した。
佐藤 昌尚 理工学研究科 博士前期課程2年	<ul style="list-style-type: none"> ・天文学および宇宙物理学分野における研究において、「第2の月」(太陽系以外での衛星)を検出および推定する新しい方法を見出すなど、画期的な成果を挙げた。 ・筆頭著者とする査読付き論文が日本天文学会発行の雑誌に速報(レター)として掲載。同時に新聞3紙で研究成果が報道された。
岡田 良隆 理工学研究科 博士前期課程2年	<ul style="list-style-type: none"> ・含フッ素高分子/イオン液体ナノコンポジットの調製とその応用に関する研究を積極的に、かつ自主的に展開。 ・2009年度色材協会研究発表優秀ポスター賞、材料技術研究協会ゴールドポスター賞をそれぞれ受賞した。
高橋 祐香 理工学研究科 博士前期課程2年	<ul style="list-style-type: none"> ・液晶性と抗腫瘍効果に相関があることを見つけ、その成果を日本化学会速報誌に掲載された。その際、審査員から液晶の新しい展開を示す成果として高い評価を受けた。
野地 杏奈 理工学研究科 博士前期課程1年	<ul style="list-style-type: none"> ・新規なキラル液晶分子を合成し、フェリ誘電性相という特殊な液晶相の温度範囲拡大に成功した。その結果としてアメリカ化学会物理化学雑誌に掲載し、審査員の高い評価を得て掲載された。
目時 匠 理工学研究科 博士前期課程2年	<ul style="list-style-type: none"> ・平成21年度日本火災学会において「シュリーレン法を用いた噴流拡散火災の可視化」という題名で研究発表を行い、平成21年度日本火災学会学生奨励賞を受賞した。
山下 麻美子 農学生命科学研究科2年	<ul style="list-style-type: none"> ・3種類の腺がん細胞株(肺、子宮内膜、副腎皮質由来の腫瘍)を用い、2D-PAGEとWestern Blot解析方法で発現しているケラチン分子をタンパク質生化学的に同定すると共に、細胞遊走性との関連性を解析した。ケラチン分子の発現が高いと細胞遊走能が低いという、細胞生化学的関連性を定量的に初めて確認し、Journal of Dermatological Scienceに筆頭著者として投稿し受理された。
上田 浩人 農学生命科学研究科2年	<ul style="list-style-type: none"> ・昆虫の幼若ホルモン(JH)合成酵素にかかわるほとんどすべての遺伝子(11個)のRNA発現の局在を異なる発育時期で明らかにした。その過程で、それら遺伝子の活性及びJH合成と、JH合成器官であるアラタ体やその細胞の大きさなどとは無関係であることを示した。 ・原著論文として昆虫生理学の一流国際誌に発表。

岡本 亜希子
医学研究科4年
【昨年度】

・「泌尿器科紀要」に掲載された約120編の症例報告の中で、特に優れた論文に対して与えられる「福田賞」を受賞した。

社会活動で特に顕著な成果を挙げた学生等

石塚 優士
教育学部4年

・学生サークルteens&lawの中心メンバーとして、非行のある児童・少年の学習支援ボランティアに積極的に関わった。依頼先の家庭裁判所、児童自立支援施設(青森県立子ども自立センター「みらい」)、及びBBS青森県連盟からその活動実績について高く評価された。

課外活動で特に顕著な功績があった学生等

■体育系課外活動

遠沢 和加
教育学部3年

・日本学生陸上競技個人選手権大会 女子やり投げ 優勝
・日本学生陸上競技対抗選手権大会 女子やり投げ 3位
・東北地区総合体育大会陸上競技 女子やり投げ 2位
・東北学生陸上競技選手権大会 女子やり投げ 優勝
・東北学生陸上競技選手権大会 女子やり投げ 優勝
・東北地区大学総合体育大会 陸上競技女子やり投げ 優勝

亀田 亜美
教育学部2年

・東北学生陸上競技対抗選手権大会 女子100m,200m 優勝
・東北学生陸上競技選手権 女子100m 優勝

多和田 有紀
医学部医学科6年

・「弘前・白神アップルマラソン」 女子の部フルマラソン 優勝
・「横浜国際女子マラソン」477名中36位の成績で青森県記録並びに東北学生記録更新。

外館 浩太
理工学部4年

・第34回北海道・東北学生競技ダンス対抗戦 ルンバ部門 優勝
・第78回全東北学生競技ダンス選手権大会 バンドブレ、サンバ部門 優勝

工藤 ともみ
医学部保健学科4年

・第34回北海道・東北学生競技ダンス対抗戦 ルンバ部門 優勝
・第78回全東北学生競技ダンス選手権大会 バンドブレ、サンバ部門 優勝

入川 望美
人文学部3年

・第39回東北居合道大会 女子三段以下の部 優勝



亀井 岳秋
理工学部3年

・第5回日台大学軟式野球親善国際大会の日本代表選抜メンバーに選出

上方 雄理
教育学部1年

・平成21年度東北学生柔道体重別選手権大会 男子60kg級 2位
・平成21年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会東北地区予選会 男子60kg級 2位
・平成21年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会青森県予選会 男子60kg級 優勝
・平成21年度東北国公立大学柔道大会 男子60kg級 優勝

四茂野 恵奈
医学部医学科4年

・第39回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子ダブルス 3位、女子団体 準優勝
・第52回東日本医科系学生総合体育大会バドミントン競技 女子団体 3位、シングルス・ダブルス 3位

追切 裕江
医学部医学科4年

・第39回北日本医科系学生バドミントン選手権大会 女子団体 準優勝
・第52回東日本医科系学生総合体育大会バドミントン競技 女子団体、女子ダブルス 3位

内田 康幸
医学部医学科4年

・第52回東日本医科系学生総合体育大会空手道競技 男子個人組手 準優勝

小林 麻美
医学部医学科6年

・第52回東日本医科系学生総合体育大会空手道競技 女子個人形 3位

小渡 亮介
医学部医学科6年

・第52回東日本医科系学生総合体育大会空手道競技 男子個人形 優勝、男子個人組手 3位





弘前大学特別研究員制度

優れた若手研究者を弘大から輩出しよう 「弘前大学特別研究員制度」で 独自の支援体制を確立

平成19年度から実施している、本学独自の制度「弘前大学特別研究員制度」。導入から3年が経ち、学内での認知度は徐々に高まってきています。地域や社会に貢献し、本学を代表する研究業績を残すような研究者の輩出を目指し、研究意欲にあふれた優秀な若手研究者の育成を支援するこの制度の概要と、日々研究に勤しむ特別研究員3人の研究の様子を紹介します。

全国の先駆けとなる 本学独自の支援制度

専門とする研究テーマに継続して取り組み続けることは、研究者にとって当然の望みであり、大きな成果を生むことにつながります。しかし、そのような環境を整え、若手研究者を育てようとする制度は、全国的に見てもまだ少ないのが現状です。

そこで、本学では平成19年度から「弘前大学特別研究員制度」を設け、意欲ある研究者を多面的にサポートしています。加藤陽治理事（研究・産学連携担当）は「大学院ではドクターコースを充実させて人材を育成していますが、これまでですと、そのあとの受け入れ先を見つけるのが難しい状況でした。意欲のある優秀な大学院修了生を、その後も本学で育てていく必要性があると考え、本学独自の特別研究員制度を導入しました」と、経緯を語

ります。

若手研究者の支援制度としては、日本学術振興会が実施する特別研究員制度が挙げられますが、研究者にとっては研究環境が一変し、研究テーマの継続も難しくなりうるという問題があります。学外へ出ることなく、同じテーマについて腰を据えて研究ができるこのような制度を独自に設けたのは、全国的に見ても本学が先駆けです。

優秀な人材を受け入れて しっかりと育てたい

弘前大学特別研究員に応募できるのは、研究を開始する年の4月1日現在、博士の学位を有する者または博士の学位を取得する見込みの者で、選考方法は一次が書類審査、二次が面接審査です。

採用されると、本学の受入教員の指導助言を受け、本学の施設・設備等を

利用し、週30時間以上研究に専念します。また、国内外の学会発表、国際的学会誌・学術誌への投稿、科学研究費補助金事業等への応募を行なうことができます。研究奨励金としては月額25万円が支給され、そのほか研究活動に要する研究費は年額25万円を上限として受入教員に交付されます。

任期は最長3年で、年度末の審査によって継続が決まります。現在は平成21年度に採用された3名が研究活動を行っていますが、平成22年度は新たに3名が加わり、特別研究員は6人となります。導入当初は制度の認知度が低く、応募者は多くありませんでしたが、応募人数の推移から、この制度に注目している学生が増えてきていると、加藤理事は実感しています。さらに「募集要項には採用人数を若干名と記していますが、選考基準を満たす人が多いので、可能な限り多くの優秀な人材を確保し、育てたいと考えています」と、意欲を見せます。



本学独自の特別研究員制度の特徴について説明する加藤陽治理事。

平成21年度特別研究員

本学で育て、地域に還元する 仕組みの構築が目標

現在の特別研究員は研究2年目に入るところであり、制度そのものも導入からわずか3年という現段階では、まだ成果を量ることができません。けれども、それぞれの研究員は与えられた機会を活かし、精力的に研究活動に取り組んでいます。加藤理事も「研究員の中には、科学研究費補助金の申請を積極的に行い、研究資金を獲得している人、国際的な学会での招待講演者の一人に選ばれている人もいます」と話し、研究の活発化を高く評価しています。

この制度の充実により本学が目指しているのは、地域や社会に貢献できる研究者を育成し、本学を代表する研究業績に発展しうる研究活動のきっかけをつくること。そのためには、大学もさまざまな手を打っていく必要があります。「3年の任期を終えた後も本学に残り、教育・研究の場で活躍してもらえよう仕組みが構築できればと考えています。たとえば教員のポストの確保であったり、外部資金による大型研究プロジェクトの獲得であったり。せっかく本学で研究を積み重ねたのですから、それを地域にぜひ還元してほしいと思います」と、加藤理事は期待を込めて語ります。



鳴海 剛

【専門分野】 分子材料工学

【受入教員】 吉澤 篤

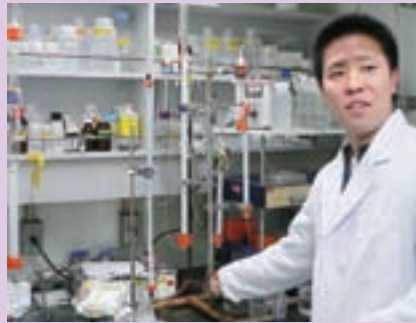
(理工学研究科教授)

■研究テーマと状況

ディスプレイ用液晶材料の開発を行っています。私は応答速度に着目し、二軸性のネマチック相での高速応答化を図ろうとしています。二軸性ネマチック相を発現する液晶化合物はあまり報告されておらず、二軸性ネマチック相での電界応答挙動に関する報告はまだありません。これまでの二軸性ネマチック相液晶は混合系や単量体化合物ですが、この研究の特色は、オリゴマー液晶化合物を合成し、用いることです。これにより二軸性ネマチック相を発現し、電界応答が実現できれば、液晶ディスプレイだけでなく、広範囲に用いることができる液晶材料となり得ます。

■特別研究員制度について

研究をしていてやりがいを感じるの、分子の設計から合成、物性の解析まで、一連の作業を自分でやれるという点です。在学中からずっと液晶の研究に取り組んできましたが、自分の好きなテーマに思う存分打ち込めることに充実感を覚えています。



尾崎 拓

【専門分野】 細胞生化学、細胞生物学

【受入教員】 石黒誠一

(農学生命科学部教授)

■研究テーマと状況

ミトコンドリア内在性カルパインの機能解析が研究テーマです。カルパインとはカルシウムイオンで活性化される細胞内プロテアーゼで、細胞内調節因子として機能しています。ミトコンドリアに局在するカルパインは、これまでの研究で細胞死を制御していることが分かっており、弘前大学医学研究科眼科学教室の中澤満教授との共同研究により、視細胞変性に対するミトコンドリアカルパイン関与の解明を行なっています。この研究により、先天性網膜変性症をはじめ、未だ治療法が確立されていない難治性疾患を予防できる可能性があります。

■特別研究員制度について

農学生命科学部には優れた先生方と最新の機器が揃っているので、研究環境として申し分ありません。また、学生時代から進めている研究を継続して行えることが、この制度の最大の利点だと思います。継続することで面白い発見が生まれてくると考えています。



栗田大輔

【専門分野】 生化学、分子生物学

【受入教員】 姫野侑太

(農学生命科学部教授)

■研究テーマと状況

大腸菌におけるトランス・トランスレーション(トランス翻訳)の分子メカニズム解明に取り組んでいます。その鍵を握るのが、tRNAとmRNAの両方の機能を持つキメラ分子tmRNA。現在確立されている手法では構造解析が困難ですが、従来とは異なるアプローチにより特殊な翻訳システムの全体像を可視化しようと試みています。タンパク合成はすべての生物において重要な役割を果たすため、その分子メカニズムを解明することは、基礎科学の発展にとどまらず、新薬の開発という観点からも重要です。

■特別研究員制度について

自分の研究をステップアップさせるためには、ほかの分野の影響を受けることも大切です。そこで国内外での学会発表や科研費の申請など研究を深められるよう努めています。それを支援してもらえるのがありがたいです。

国立大学法人弘前大学の役職員の報酬・給与等について

国立大学法人弘前大学では、総務大臣が定める「国立大学法人等役員の報酬及び職員の給与水準の公表方法等について(ガイドライン)」に基づき、役職員の報酬・給与の水準を公表しております。

公表内容の詳細につきましては、「弘前大学ホームページ <http://www.hirosaki-u.ac.jp>」の「組織情報」のページをご覧ください。

◎役職員の報酬・給与等について

千円

役名	平成20年度年間報酬等の総額			就任・退任の状況		前職
	報酬(給与)	賞与	その他(内容)	就任	退任	
法人の長	19,302	13,704	5,547	51(寒冷地手当)		
理事A	13,237	9,360	3,788	89(寒冷地手当)		
理事B	12,887	8,736	3,536	564(単身赴任手当) 51(寒冷地手当)	3月31日	◇
理事C	13,237	9,360	3,788	89(寒冷地手当)		
理事D	13,261	9,360	3,788	24(通勤手当) 89(寒冷地手当)		
理事E	11,360	7,848	3,176	247(通勤手当) 89(寒冷地手当)		
監事A(非常勤)	3,210	3,210			4月1日	※
監事B(非常勤)	450	450				

◎総人件費について

千円

区分	当年度(平成20年度)	前年度(平成19年度)	比較増△減	中期目標期間開始時(平成16年度)からの増△減
給与、報酬等支給総額(A)	10,981,165	11,161,833	△180,668(△1.6%)	△613,375(△5.3%)
退職手当支給額(B)	1,282,732	1,635,467	△352,735(△21.6%)	191,888(17.6)
非常勤役員等給与(C)	1,492,254	1,397,385	94,869(6.8%)	31,316(2.1%)
福利厚生費(D)	1,491,992	1,536,193	△44,201(△2.9%)	△99,235(△6.2%)
最広義人件費(A+B+C+D)	15,248,143	15,730,878	△482,735(△3.1%)	△489,406(△3.1%)

・「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄。

◎職員と国家公務員及び他の国立大学法人等との給与水準(年額)の比較指標(事務・技術職員/教育職員(大学教員)/医療職員(病院看護師))

(事務・技術職員)

対国家公務員(行政職(一)) **87.1**

対他の国立大学法人等 **97.6**

(教育職員(大学教員))

対他の国立大学法人等 **94.1**

○教育職員(大学教員)と国家公務員との給与水準の比較指標 92.1
(注)上記比較指標は、法人化前の国の教育職(一)と行政職(一)の年取比率を基礎に、平成20年度の教育職員(大学教員)と国の行政職(一)の年取比率を比較して算出した指数である。

(医療職員(病院看護師))

対国家公務員(医療職(三)) **93.1**

対他の国立大学法人 **95.6**

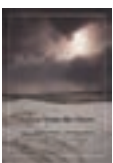
〈注〉当法人の年齢別人員構成をウエイトに用い、当法人の給与を国の給与水準(「対他の国立大学法人等」においては、すべての国立大学法人等を一つの法人とみなした場合の給与水準)に置き換えた場合の給与水準を100として、法人が現に支給している給与費から算出される指数をいい、人事院において算出

弘前大学出版会からのご案内

Voices from the Snow

Tsugaru in Legend, Literature, and Fact

James N.Westerhoven 編訳



A4判・285頁
定価 2,625円
(本体 2,500円)

ISBN 978-4-902774-50-4
発行 2009年9月14日

『Voices from the Snow』。津軽文学と解説するエッセーの前後のない選集。長部日出雄作「津軽じょんから節」、「津軽世去れ節」、「雪のなかの声」(1973年、第69回直木賞)、高木恭造作「婆々宿」と「相野」、津軽の昔話の二点は、いずれも初めての英訳出版。津軽三味線・津軽民謡・イタコ・鬼についてのエッセーは、一般読者だけではなく、学者にも興味深い。カラー写真37点、関係文献総覧、人名・地名一覧。

教師のための紫外線講座

～紫外線が子どもをねらう～

花田勝美 著



A5判・80頁
定価 1,470円
(本体 1,400円)

ISBN 978-4-902774-51-1
発行 2010年1月13日

ある日突然気になるシワやシミ。元凶は太陽紫外線。皮膚がんや免疫の低下も招きます。子どもの時からの賢い紫外線対策が「転ばぬ先の杖」になります。本書には、「紫外線発見の話」、「光老化の機序」、「紫外線による皮膚病」、「紫外線防御」のエッセンスをコンパクトにまとめました。併せて、米国のサンワイズ・スクールプログラムを紹介しました。この一冊が、「教師」と「子ども達」をしっかりと「サンワイズ」にしてくれます。

一既刊のブックレットシリーズ

No.6 まち育てのススメ

No.5 津軽から発信国際協力キャリアを生きる JICA 編

No.4 いまベトナムは—経済の移行と発展への道のり—

No.3 Dr. 中路の健康医学講座

No.2 青森県のフィールドから—野外動物生態学への招待—

No.1 転換の時代の教師・学生たち—青森師範学校・弘前大学教育学部祝辞・答辞集

ひろだい vol.14 2010年3月発行

弘前大学総務部総務課

表紙: サイエンスパーク「アース・ビジョン」

「ひろだい」に関するご意見・ご感想をお聞かせください。

「ひろだい」はWebでもご覧いただけます。下記URLからお進み下さい。



弘前大学

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地
Tel.0172-39-3012 Fax.0172-37-6594
E-mail: jm3012@cc.hirosaki-u.ac.jp
<http://www.hirosaki-u.ac.jp>

